

「研究科長賞」について

平野吉直 信州大学大学院教育学研究科長

信州大学大学院教育学研究科における「研究科長賞」は2007年度に設けられました。この賞は、その年度に提出された修士論文の中から、研究科長が最も優秀と認めたものに授与され、卒業式・学位記授与式後の謝恩会において授賞式が行われます。そして、受賞した論文は、公開予定がなければ著者の希望により『信州大学教育学部研究論集』に学術論文として掲載されることになっています。

2012年度の研究科長賞は、教科教育専攻英語教育専修の内田健太郎さんの「Reformulation とモデルが仮定法過去完了の習得に与える効果 -単一事例実験計画を通して-」に決まりました。同論文の内容はオリジナリティ、論理性、研究成果等の観点から秀でたものであり、学術的意義のみならず教育現場への応用が期待されるという実践的意義においても高い価値をもつものと認められました。研究科長賞に応募された他の多くの論文も優れたものであり、選考は甲乙つけがたいもので年々難しくなっています。このことから教育学研究科全体の修士論文のレベルの底上げが図られていることが実感される感慨深い年度となりました。